

ビザンティン修道院典礼の本質：夜半課における 『詩編』第119（118）編の意味づけをめぐって

著者	秋山 学
雑誌名	文藝言語研究
巻	78
ページ	49-77
発行年	2020-10-31
URL	http://hdl.handle.net/2241/00161658

ビザンティン修道院典礼の本質

—夜半課における『詩編』第 119(118)編の意味づけをめぐる—

秋 山 学

序.

旧約聖書『詩編』の読誦は、ユダヤ教徒からキリスト教徒が受け継いだ伝承であるが、両者による意味づけにはいかなる相違が認められるのであろうか。

キリスト教の典礼のうち、古代性をよく留めたまま現代にまで継承されているのがビザンティン典礼である（秋山 2020）。ビザンティン典礼には、大別して修道院典礼と教区典礼とがあり、当然のことながら前者のほうが厳格である。そして最も厳格なレベルで修道院典礼、換言すれば修道院における祈祷の日課が執り行われる場合、一日の始まりを画す未明に「夜半課」と呼ばれる祈祷がおこなわれる。

この「夜半課」には週日・土曜・主日（日曜）と 3 種類のパターンがあり、相互にかなり異なっている。このうち「週日夜半課」は、それだけ世俗（教区も含めて）との乖離性が甚だしいという意味において最も修道院性の濃い祈祷であると言えるが（Ivancsó 1999 : 191）、この「週日夜半課」において、その大部分を占めるのが、旧約聖書の『詩編』第 118 編（ギリシア語訳聖書を用いるため通常このナンバリングで記憶される；ヘブライ語テキストによれば『詩編』第 119 編）全編の読誦である。

本稿では、この『詩編』第 118 編をヘブライ語原典テキストに基づいて読み上げる際（したがって本稿では『詩編』第 119 編を読むということになる）、ビザンティン典礼の整備者として歴史上に記憶される、ギリシア教父大バシレイオス（330-379）の著作を時に参照しつつ、キリスト教ビザンティン典礼の視点からの読誦によって、旧約聖書のテキストの読み方に関していかなる要因と変化が加わり得るのか、を検証してみたいと考える。この際、バシレイオスが抗アレイオス派論争の中で、聖霊論ならびに正統三位一体論の確立に貢献したことを併せて記憶しておきたい。

1. ビザンティン典礼による一日の祈祷サイクルの概要

バシレイオスの著作『修道士大規定』第37項には、現在にまで至るビザンティン修道士たちの祈祷サイクルの原型が明示されている。それに基づくなら (Ivancsó 1999 : 116-118),

- 1) 第1時課
- 2) 第3時課
- 3) 第6時課
- 4) 第9時課
- 5) 晩課
- 6) 終課
- 7) 夜半課
- 8) 朝課

により祈祷の一日が構成される。これ以外に9) 聖体祭儀が加えられて典礼のサイクルが完成することになる。

さて、修道士たちがこれら祈祷のサイクルの中で行っていることは、主として旧約聖書『詩編』全150編の読誦であるといって差し支えない。伝統的なスケジュールによれば、『詩編』全編は上記のうち5) 晩課および8) 朝課の中で読誦され、1週間で全150編が通読される。晩課と朝課は、主・祝日に際しては教区教会の聖堂でも行われるため、これには信徒も参加が可能であるが、週日も含めて毎日この晩課と朝課が行われるのはほぼ修道院に限られる。なお、このように一週間を通じての晩課・朝課で『詩編』全編が通読されるのであるが、これ以外の祈祷として、上掲のように「夜半課」が行われ、そこでも『詩編』の読誦が義務づけられている。そして、週日の夜半課でまず読まれるのが『詩編』第118 (119) 編である、ということになる。

ところでこの『詩編』読誦に関して、ビザンティン典礼の伝承の中で編み出された独特のグルーピングのシステムがある。それは「カティズマ」と呼ばれるものである。

2. 「カティズマ」をめぐって

「カティズマ」とは元来「着席」といったような意味のギリシア語語彙であるが、これは、典礼のなかでこの『詩編』読誦の間は、参会者が着席してこれ

を行ってよい、とされることから与えられた名称である。この「カティズマ」とは、『詩編』全150編を計20個のグループに分け、土曜の晩課をスタートに、第1カティズマから順に読む、というシステムを意味する。カティズマの内容は順に（以下ヘブライ語テキストの『詩編』番号による；秋山2010a：145-146）、

第1：1～8 第2：9～17 第3：18～24 第4：25～32 第5：33～37
第6：38～46 第7：47～55 第8：56～64 第9：65～70 第10：71
～77 第11：78～85 第12：86～91 第13：92～101 第14：102～
105 第15：106～109 第16：110～118 第17：119 第18：120～
134 第19：135～143 第20：144～150

である。本稿で扱う『詩編』第119編は、上掲のように単独で第17カティズマを構成する。

さて、ビザンティン典礼の晩課・朝課のスケジュールにあつては、この20個の「カティズマ」を、土曜すなわち主日前晩の晩課から読み始める。すなわち土曜夕刻の晩課においては、カティズマ一個分に当たる『詩編』第1編から第8編までを、3分割しつつ交唱のかたちで読み進めてゆく。3分割とは、読誦全体のあいだに2つの中途区切りが設けられるという次第を指す。この区切りに際してそれぞれ唱えられる誦句は「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3；「主よ憐れみたまえ」×3；「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」と定まっている（下記『詩編』第119編も第17カティズマ一個分であるので、詩編の中途2か所にこの誦句が配される。詳しくは下記参照）。

本稿での結論を先取りするようだが、ここには既に三位一体への讃美が歌い上げられていることに注目したい。すなわち、ビザンティン典礼では旧約聖書『詩編』の読誦においても、すでに三位一体論の観点に基づいてこれを行っているのである。

一週間で読まれるカティズマないし『詩編』の内実は、次のようになっている（数字はカティズマの番号を指す）。晩課で1個カティズマ、朝課で2個カティズマ、というのが基本である。

土晩【1】、日朝【2, 3】、日晩【-】、月朝【4, 5】、月晩【6】、火朝【7, 8】、火晩【9】、水朝【10, 11】、水晩【12】、木朝【13, 14】、木晩【15】、金朝【19, 20】、金晩【18】、土朝【16, 17】。

これを見てまず気づくのは、日曜晩課には、読誦のために『詩編』が割り振

られてはいないこと、また木曜晩課まではカティズマの番号に沿って順に読み進めるものの、金曜朝課以降は順序が逆転し、土曜朝課を以降の起点とするかのごとき配分となり、順番から言えば、以降土朝⇒金晩⇒金朝の順序で20カティズマ全体の読誦が終えられる、という2点である。

まず第1点目についてであるが、20は7の倍数ではないため、朝課で2個、晩課で1個を読む上掲のようなスケジュールで進むと、どこかで1つだけカティズマを欠く朝課ないし晩課が生起するはずである。一週間の頂点が、キリストの復活を記念する日曜（主日）朝に置かれ、かつ古代の慣習を踏襲する形で一日が前晩の日没から開始されるという考えに基づけば、土曜晩課から一週間が始まるという理念はごく自然である。したがって旧約聖書の『詩編』読誦に関して、一週間のうち1か所だけを減じる必要性から言えば、それが日曜晩課になるという経緯は十分に理解できよう。

次いで第2点目に関してであるが、これは本稿での論題と少しく関わる問題である。本稿冒頭に記したように、『詩編』第119編（第17カティズマ）は週日（月曜日から金曜日まで）の夜半課で読むことになっているため、『詩編』の番号の順で第17カティズマの番になるはずの金曜日には、もし朝課で第17カティズマを読むと夜半課と朝課とで重複してしまう。これに伴って朝課の方のカティズマが移動された、という経緯を推定できよう。かくしてビザンティン典礼にあっては、朝課において『詩編』を読む習慣のほうが、夜半課において『詩編』第119編が読まれるよりも後代に成立した慣習だと推測することができるだろう。したがって『詩編』第119編は、キリスト教史のかなり早い段階から修道院的環境の中で読み続けられていた、と推察できそうである。

3. 「夜半課」の次第

以上、ビザンティン典礼による祈祷伝承のうち、まず晩課・朝課における『詩編』読誦の次第を見た。一方ほぼ修道院に限定された形で行われる「夜半課」は、週日【月～金】と土曜日、主日（それぞれ日付変更直後の未明での曜日を指す）によってその内容を異にするため、これには計3通りの次第がある。

1. まず週日の夜半課にあっては、第17カティズマ（『詩編』第119編）の後、『詩編』121編および134編が読誦されるのが現在の慣例である（Keresztes 1993: 64）。この「夜半課第2部」とも呼びうる部分は、死者のた

めの祈りを基調とする。上の二つの詩編は第18カティズマに含まれ、この死者の追憶を基調とする部分に相応しいかも知れない。もっとも、この「夜半課第2部」はおそらく後代の付加かと思われ、第1部とは性格を異にする。したがって本稿での考察からは外し、第1部についてのみ考察することにする。

この「週日夜半課」第1部の次第は、下記のようにになっている (Ivancsó 2000: 111; 詳しくは秋山 2010a, 2010bを参照)。

- 1) 初めの祝福
- 2) 『詩編』第51(50)編
- 3) 第17カティズマ (『詩編』第119(118)編)
- 4) 使徒信条
- 5) 「聖なる神」から主祷文まで
- 6) トロパール
- 7) 「主よ憐れみたまえ」×40
- 8) 「いついかなる時にも」の祈り
- 9) バシレイオスによる閉じの祈り (秋山 2015: 139-140)。

以降、夜半課第2部に当たる祈禱(上述)が続く(省略)。

2. 次に土曜朝(未明)の夜半課では、『詩編』第65(64)編から第70(69)編までで構成される第9カティズマが読まれるが、これは、例えばこのカティズマの中に含まれる第68(67)編の誦句が、復活徹夜祭において先導句(キー・フレーズ)となる「神よ、起ち上がり給え」(cf. 68:2)以下の部分に採られていることと関連すると思われる。つまりここには、復活の記念を寿ぐ土曜(深夜)あるいはそれに続く主日に先駆け、その寿ぎをいわば先取りして行おうという意識を読み取ることができる。

3. そして主日未明の夜半課では、『詩編』の読誦は影を潜め、通常朝課において一般的な典礼様式として知られる「カーノン」形式が採用されている。

この「カーノン」とは、旧約聖書中の讃歌として知られる6つの箇所【1) 出エジプト 15, 1-19 2) 申命 32, 1-43 3) サムエル上 2, 1-10 4) ハバクク 3, 2-19 5) イザヤ 26, 9-20 6) ヨナ 2, 3-10】に、同じく旧約聖書第二正典からの2箇所【7) ダニエル 3, 26-45 8) ダニエル 3, 52-88】、および新約聖書福音書中の1讃歌【9) ルカ 1, 46-55 + 1, 68-79】を加え、それぞれの聖書箇所を基に編み上げられた讃歌の集成である。ヘブライ語旧約原典からの読誦箇所は、上記第1から第6までのカーノン部に相当する。

4. 『詩編』 第119(118) 編の概要

さて、週日 5 日間の夜半課で読唱されるのが『詩編』第 119 (118) 編である。この詩編は、計 150 編より成る『詩編』のうち最も長大なものであり、ヘブライ語原文に従えば、各 8 節計 22 連の各々に字母の頭文字を冠した全 176 節で構成されている。もっとも LXX (ギリシア語訳旧約聖書) にあっても各連の冒頭に字母が置かれ、アルファベット詩であることが明示される。

いまヘブライ語原文テキストに即する限り、この第 119 編に関しては、まずこの「アルファベット詩」性、つまり各連の行頭がすべて、その当該文字を語頭にもつ語彙に始まる、という形式的側面に注目が集まる。その他、この詩ではキー・ワードである「律法」の同義語、計 8 つの語彙が繰り返し用いられるという点も指摘される。その 8 語とは、「律法」*tôrâ*, 「言葉」*dābār*, 「仰せ」*'imrâ*, 「掟」*ḥōq*, 「規律」*mišwâ*, 「定め」*piqqûd*, 「諭し」*'ēdût*, 「裁き」*mišpāt* である。これらの語彙がいずれも「あなたの～」という語形に置かれ、「あなた」なる主への呼びかけのうちに、詩人が主に躊躇なく随うことが表明されるのである。

5. 主要名詞 8 個に関する注記

フランシスコ会『聖書』訳注によれば (フランシスコ会聖書研究所 1968 : 391-393), いま述べたように、この第 119 編は各連に、教え【本稿での訳語を以下に付記する；法】*tôrâ*・ことば【言葉】*dābār*・仰せ【仰せ】*'imrâ*・おきて【掟】*ḥōq*・申しつけ【規律】*mišwâ*・定め【定め】*piqqûd*・さとし【諭し】*'ēdût*・示し【裁き】*mišpāt* という、神の「啓示」すなわち「律法」を意味する 8 つの同義語のうちの一つを必ず含んでいる。このうち 6 つは『詩編』19 (18) : 8-10 に出るもの (教え *tôrâ*, さとし *'ēdût*, 定め *piqqûd*, 申しつけ *mišwâ*, 仰せ *'imrâ*, 示し *mišpāt*) と同一だということが指摘されている。

基本となっている 8 語のうち、6 語に関しての『詩編』における用いられ方について、以下に注記しておく。

・教え *tôrâ* 【法】

語根は *yārâ* (ヒフィル態で「示す」; Szabó ²2015 : 165)。本稿では「法」と訳出する。

・さとし *'ēdût* 【諭し】

語根は‘ūd (ヒフイル態で「証す」: Szabó ²2015 : 165). 「証しの板」(出エジプト 31 : 18), 「証しの櫃」(出エジプト 25 : 22) など, 「証し」の意で用いられる. より広い意味においては, 神の業への想起を内実とする掟を意味している(『詩編』78 : 5「神は証しをヤコブにもたらし, 掟をイスラエルに置いた. これはわれらの父祖に, 彼らの子孫に教えるよう命じた」が示唆に富む). 本稿では「諭し」とした.

・定め piqqûd 【定め】

piqqûd の語根は pāqad であり, Szabó の優れた『詩編』注解によれば (Szabó ²2015 : 87, 166) meqlátogat すなわち「訪ねる」「訪れる」といったニュアンスである. 「訪れる」意図は, 「心に留める」「気に懸ける」が故であり, これはわれわれにも親しいところであるが, 思うに piqqûd が「定め」という意味になる背景には, 常に心を留め気に掛けるべき事柄としての「定め」といったニュアンスがあるのであろう. 『詩編』8 : 5 (「人とは何であるのか, あなたが記憶されるとは, また人の子とは何なのか. あなたが心に留められるとは」) も示唆に富む.

・申しつけ mišwâ 【規律】

語根は šawâ 「命ずる」. Szabó (²2015 : 166) を参照.

・仰せ ’imrâ 【仰せ】

『詩編』119 には計 19 回出る (119 : 11, 38, 41, 50, 58, 67, 76, 82, 103, 116, 123, 133, 140, 148, 154, 158, 162, 170, 172). それ以外には, イザヤ 5 : 24 創世 4 : 23 詩編 12 : 7 イザヤ 28 : 23 29 : 4 32 : 9 申命 32 : 2 詩編 17 : 6 イザヤ 29 : 4 申命 33 : 9 イザヤ 5 : 24 サムエル下 22 : 31 詩編 18 : 31 詩編 105 : 19 詩編 138 : 2 詩編 147 : 15 箴言 30 : 5 に現れる.

新約聖書の現代ヘブライ語訳を参照すると, 『ヨハネ福音書』の冒頭部のヘブル語訳のための語彙としては, ふつう dābār が当てられている. ここからヨハネ福音記者の言う「ロゴス」とは dābār なのであろう, と考えられてきた. しかしながらヘブライ語とギリシア語の対応関係から考えると, 「ロゴス」の原動詞である「レゲイン」に当たるのはむしろヘブライ語では ’āmar なのであって, dābār はギリシア語の「ラレイン」が当たるとされる (Szabó ²2015). したがってレゲインの名詞形に当たる「ロゴス」に対応するのは, ’āmar の名詞形である ’imrâ だとも考えられる. ここからヨハネ福音記者の言う「ロゴス」とは dābār とともに, ’imrâ も併せ考えるべきなのかも知れない.

なお, 後出の第 119 編注解部分では, これら imrâ と dābār が用いられている

部分について、ギリシア語訳旧約聖書における訳語とともに、個々注記しておいた。また本稿であわせ参照するとしたバシレイオスの著作におけるこの『詩編』の引用部分についても、Bazilの名で注記しておいた（§は『修道士大規定』『修道士小規定』の章番号を、それに続くローマ数字は『大規定』、アラビア数字は『小規定』における当該詩節の引用箇所を表す）。

・示し mišpāt【裁き】

Szabó (2015 : 167) を参照. šāpaṭ「裁く」が語根である。

残りの2語は、「おきて」ḥōq【掟】と「ことば」dābār【言葉】である。

・おきて ḥōq【掟】

語根はḥāqaq（定める）である。

・ことば dābār【言葉】

語根はdābar（語る）である。

以上、ヘブライ語の基本性質から言えば当然なのであるが、概念語名詞として取り出されている上記8つの語彙についても、語根となっている動詞を個々取り出すことが可能であり、この点は、以下の注記部分に続いて行うキリスト教的読誦での特質の指摘に向けて、着目しておきたい。

6. 『詩編』第119編テキスト翻刻・訳注

以下、『詩編』第119編をヘブライ語原文に即して訳出し、適宜注記を加える。下記のように欧文文字アルファベットに翻字しただけでも、各連が、当該文字に始まる語彙を行頭に配し、この第119編がテクニクに満ちた作品であるという点が明瞭になることであろう。

1 'alef)

1] 'ašrê ʾmîmê-dāreḵ hahōl-ʾkîm b'tōrat ʾădōnāy

幸いなる者たち、それは道を全うし、主の法を歩む者たち。

2] 'ašrê nōṣrê ʾēdōtāw b'kol-lēḵ yidr'šūhū

幸いなる者たち、それは主の証しを遵守し、まったく心でそれを尋ね求める者たち。

・nāṣar「守る」意であるが、第119編には頻出する（119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145）。

3] 'ap lō'-pā'ālū ʾawlâ bidrākāw hālākū

彼らは悪事を働かず、主の道を歩む。

4] 'attā šiwwîṭā piqquḏeykā lišmōr m'ōd

あなたはあなたの定めを、墨守するようにと課す。

5] 'aḥālay yikkōnū ḏ'rākāy lišmōr ḥuqqeykā

願わくは、わが道があなたの掟を守る上で揺るがぬものであれかし。

6] 'az lō-'ēbōš b'habbîṭi 'el-kol-mišwōteykā

そしてわたしが、恥じることなくあなたの規律のすべてに専心できるように。

7] 'ōḏkā b'yošer lēbāb b'lom'ḏi mišp'ṭe šidqekā

わたしは、あなたの正しき裁きを学ぶに際し、直き心もて感謝をささげる。

8] 'eṭ-ḥuqqeykā 'ešmōr 'al-ta'azḥēnī 'aḏ-m'ōd

わたしはあなたの掟を守ろう、あなたがわたしをとこしえに見棄てることのないように。

2 bet)

9] bamme(h) y'zakke(h)-nna'ar 'eṭ-'orhō lišmōr kidḇārekā (λόγος)

若者は何をもって自らの道を浄めるのか。あなたの言葉を守ることによってである。

10] b'kol-libbī ḏ'raštīkā 'al-tašgēnī mimmišwōteykā

わたしはまったき心であなたを探し求めよう。あなたの規律から逸れぬようにさせたまえ。

11] b'libbī šāpantī 'imrātekā ('imrā:λογία) l'ma'an lō' 'ehēṭā'-lāk

わたしは心に秘す、あなたの言葉を。あなたに対して罪を犯さぬように。

12] bārūk 'attā 'āḏōnāy lamm'ḏēnī ḥuqqeykā

主よあなたは祝された方、わたしにあなたの掟を教えたまえ。

・これは朝課における「復活讃歌」の基調をなす主題である（秋山 2010a, 2010b）。

13] bišpāṭay sippartī kōl mišp'ṭe-pīkā

わたしはわが唇で伝える、あなたの口のすべての裁きを。

14] b'ḏerek 'ēḏwōteykā šaštī (119 : 14, 162) k'e'al kol-hōn

あなたの智の道にあって、わたしは悦ぶ、すべての富に優るものとして。

15] b'piqquḏeykā 'ašīhā w'e'abbīṭā(nāḇaṭ) 'ōr'ḥōteykā ('ōrah)

わたしはあなたの定めを思い巡らす。そしてあなたの道に目を注ぐ。

16] b^huqqōteykā 'ešta'āšā' (šā'a'; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94: 19) lō' 'eškaḥ
d^hbārekā (dābār: λόγος)

わたしはあなたの定めに喜び、あなたの言葉を忘れることがない。

3 gimel)

17] g^mmōl 'al-'aḇd^hkā 'chye(h) w^e'ešm^erā d^hbārekā (dābār: λόγος)

あなたの僕の上に恩恵を授け、生かしたまえ。わたしはあなたの言葉を守ろう。

18] gal-'ēnay w^e'abbīṭā niplā'ōṭ (pāla' 驚くべきである) mitōrātekā

わが両の目を開きたまえ、わたしがあなたの法に驚異を観想できるように。

19] gēr'ānōkī ḥā'āreš 'al-tastēr mimmennī mišwōteykā

わたしは地上における寄留者。あなたの規律をわたしに隠すことなかれ。

20] gār^esā napšī l'ṭa'āḥā 'el-mišpāteykā ḥ^ekol-'ēṭ

わたしの心は疲れ果てた。あなたの裁きをいかなる時にも求めるが故に。

21] gā'artā zēḏīm 'ārūrīm ḥāššōgīm mimmīšwōteykā

あなたは高ぶるものを低くし、あなたの規律に背く者を厭われる。

22] gal mē'ālay ḥerpā wāḥūz kī 'ēḏōteykā nāšār^etī

そしりとさげすみを取り去りたまえ。わたしはあなたの知を守る。

23] gam yāš^eḥū šārīm bī niḏbārū 'aḇd^hkā yāšīaḥ (119 : 15, 23, 27, 48, 78, 148)
b^huqqeykā

たとえ支配者たちがわたしに悪意を抱こうとも、あなたの僕であるわたしは、あなたの掟を思い巡らす。

24] gam-'ēḏōteykā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」 ; 119 : 24, 77, 92, 143, 174)
'anšē 'āšāṭī (Bazil § 230, 269)

あなたの知はわが歓び。わたしを論す力。

4 dalet)

25] dāḇ^eqā le'āpār napšī ḥayyēnī (ḥāyā ピエル態) kiḏbārekā (λόγος)

わが魂は死の床に臥す。あなたの言葉に従い、わたしを生かしたまえ。

26] d^erākay sippartī watta'ānēnī lamm^edēnī ḥuqqeykā

わたしはあなたの道を語り、あなたはわたしを聞き届けて下さる。あなたの掟を学ばせたまえ。

・朝課に頻出する。

27] derek-piqqûdeykā hābînēnî w^e’āsîhâ b^enipl^e’ôteykā

あなたの定め^eの道^eを覚^eらせたま^eえ。わたしはあなたの奇^eしき業^eに思^eいをはせ^eる。

28] dāl^epâ napšî mittûgâ qayy^emēnî kidbāre^ekā (λόγος) (Bazil § 80)

わが魂^eは悲^eしみに打^eちひしがれる。あなたの言^e葉^eの通^eり、わたしを立^eち上^eが^eらせたま^eえ。

29] derek-še^eqer hāsēr (sûr のヒフイル態；「遠^eざける」) mimmennî w^etôrāt^ekā ḥonnēnî

悪^eの道^eをわたくしから遠^eざけたま^eえ。そしてあなたの法^eをもつてわたしを憐^eれみたま^eえ。

30] derek-’ēmûnâ bāhār^etî mišpāteykā šiwwûî

わたしはまこと^eの道^eを選^eび、あなたの裁^eきを貶^eめることがない。

31] dābaqtî b^e’ēd^ewōteykā ’ādōnāy ’al-’bîšēnî

主^eよ、わたしはあなたの論^eしから離^eれない。わたしを辱^eめたもうな。

32] derek-mišwōteykā ’ārûš kî tarḥîb libbî

あなたの規^e律^eの道^eをわたしは走^eる。あなたはわが心^eを広^eげられた。

5 he)

33] hōrēnî (yārâ のヒフイル態；「教^eえる」；102 にも) ’ādōnāy derek ḥuqqeykā w^eešš^erennâ ’ēqeb

主^eよあなたの掟^eの道^eをわたしに教^eえたま^eえ。わたしは最後までそれ^eを宝物^eとしよう。

34] hābînēnî w^eešš^erâ tôrāt^ekā w^eešm^erennâ b^ekol-lēb

わたしに理^e解^eを授^eけたま^eえ、わたしはあなたの法^eに随^eい、心^eを込^eめてそれ^eを守^eろう。

35] hadrîkēnî bintîb mišwōteykā kî-bô hāpāš^etî (hāpēs これも「喜^eぶ」；詩編 51 : 8, 18, 21 にも出^eる)

あなたの規^e律^eの小道^eを歩^eませたま^eえ。わたしはそこ^eに喜^eびを見^e出す。

36] haṭ-libbî ’el-’ēd^ewōteykā w^e’al ’el-bāša’

わが心^eをあなたの論^eしに向^eけさせたま^eえ。そして不正^eな益^eには目^eを向^eけさせ^eたもうな。

37] ha’ābēr ’ēnay mēr’ôt sāw^e’ bidrāke^ekā ḥayyēnî

わが両^eの目^eを虚^eしきもの^eを見^eることから逸^eらせたま^eえ。あなたの道^eにわれを

生かさせたまえ.

38] hāqēm l^ʿab^ʿd^ʿkā 'imrātekā (λόγιον)'āšer l^ʿyir'ātekā

あなたの言葉をあなたの僕に立てたまえ. あなたへの畏れのために.

39] ha'ābēr herpāṭī 'āšer yāgōr^ʿtī kī mišpātey^ʿkā tōbīm

わたしが恐れるわたしへの嘲りを逸らせたまえ. あなたの裁きは良きもの.

40] hinnē(h) tā'ab^ʿtī l^ʿpiqudey^ʿkā b^ʿšidqā^ʿkā hayyēnī

見よわたしは待ち望む, あなたの定めを. あなたの義においてわたしを生かしたまえ.

6 waw)

41] wībō'unī ḥāsāde^ʿkā 'ādōnāy t^ʿšū'āt^ʿkā k^ʿ'imrātekā (λόγιον)

主よあなたの慈しみをわたしに來たせたまえ, あなたの仰せの通りに, あなたの救いをわたしに來たせたまえ.

42] w^ʿe'ēne(h) ḥōr^ʿpī dābār kī-bāṭaḥ^ʿtī biḏbāre^ʿkā (λόγος)

わたしを嘲る者に対しわたしが言葉を応えられるよう. わたしはあなたの言葉に信を置く.

43] w^ʿal-taššēl (nāšal 「取り去る」) mippī ḏ^ʿḥar (λόγος)-'ēmet^ʿ 'ad-m^ʿōd kī l^ʿmišpāte^ʿkā yihāl^ʿtī

わが口からあなたのまことの言葉を取り去りたもうな. わたしは真にあなたの裁きを待ち望む.

44] w^ʿešm^ʿrā tōrāt^ʿkā tāmīd l^ʿōlām wā'ed

わたしは守ろう, あなたの法を止むことなく永遠に, とこしえに.

45] w^ʿeṭhall^ʿkā bār^ʿḥābā kī piqudey^ʿkā dārāš^ʿtī

わたしは歩もう, 広き場所で. なぜならあなたの規律をわたしは尋ね求めるがゆえに.

46] wa'adabb^ʿrā b^ʿ'ēdōtey^ʿkā neged^ʿ m^ʿlākīm w^ʿlō' 'ēbōš (Bazil § V3)

わたしは語ろう, あなたの論しを, 王たちの前で. そしてわたしは恥じることがない.

47] w^ʿešta'āša' (šā'a'; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94 : 19) b^ʿmišwōtey^ʿkā 'āšer 'āhāb^ʿtī

わたしはあなたの規律を楽しむ, それはわたしが愛するもの.

48] w^ʿeššā'-kappay 'el-mišwōtey^ʿkā 'āšer 'āhāb^ʿtī w^ʿāšīhā b^ʿḥuqqey^ʿkā

わたしはあなたの規律に対し, おのが両の手を挙げる. それはわたしが愛す

るもの。そしてわたしはあなたの掟について思い巡らす。

7 zayin)

49] zēkōr-dābār (λόγος) l'abdekā 'al 'āšer yihaltānī (yāhal; 119: 43, 49, 74, 81, 114, 147)

あなたの僕に御言葉を思い起こさせたまえ。それはあなたがわたしに待ち望ませたもの。

50] zō't neḥāmātī b'onyī kī 'imrātēkā (λόγιον) hiyyātēnī

これこそ、わが悩みにおけるわたしの慰め。なぜならあなたの仰せはわたしを生かすもの。

51] zēdīm hēliṣunī 'aḏ-m'ōḏ mittōrātēkā lō' nātīti

高ぶる者たちは、限りなくわたしを嘲笑する。私は退くまい、あなたの教えから。

52] zākartī (zākar) mišpāṭeykā mē'ōlām 'ādōnāy wā'eṭneḥām

主よ、わたしは想い起こす、永遠の昔からのあなたの裁きを、そして慰めを受ける。

53] zal'āpā 'āhāzaṭnī mēr'sā'im 'ōz'bē tōrātekā (Basil §53, 192)

悪しき者たちゆえに、激しい怒りがわたしを捉えてやまない。彼らはあなたの法を見棄てる者たち。

54] z'mirōt hāyū-lī ḥuqqeykā b'ḥēt m'gūrāy

わたしにとって、あなたの掟は讃歌に他ならない。わたしの住まう家において。

55] zākartī (zākar; 119: 52, 55) ḥallaylā šimkā 'ādōnāy wā'ešm'rā tōrātekā

主よ、夜のうちにわたしはあなたの名を想い起こす、そしてわたしは守る、あなたの法を。

56] zō't hāy'ēl-lī kī piqqudeykā nāšār'tī

それはわたしのもの、わたしはあなたの定めを守る。

8 ḥet)

57] ḥelqī 'ādōnāy 'āmartī lišmōr d'ḥāreykā

主よあなたはわが一部。あなたの言葉を守らんがため。

58] ḥillitī pāneykā b'kol-lēb honnēnī k' 'imrātekā (λόγιον)

わたしはあなたの御顔を願い求める。心のすべてをもって、あなたの言葉ど

おりに、わたしを憐れみたまえ。

59] ḥiṣṣabti d^erākāy wā'āšibā raglay 'el-'ēdōteykā

わたしは自らの道を心に留め、そして自らの足を返す、あなたの諭しに向けて。

60] ḥaštī w^elō' ḥiṭmahmāh^etī lišmōr miṣwōteykā

わたしは急ぎ、ためらうことがない。あなたの規律を守ることにおいて。

61] ḥeblē r^ešā'im 'iww^edunī tōrāt^ekā lō' šākāh^etī

悪しき者たちの縄がわたしを取り巻いても、わたしは忘れない、あなたの法を。

62] ḥāšōt-laylā 'āqūm l^ehōdōt lāk 'al mišp^etē šidqekā (Bazil § XXXVII5)

夜半にわたしは身を起こし、あなたに感謝する、あなたの義の裁きをめぐって。

・バシレイオスが引用しているように、この箇所こそ、この第 119 編が「夜半課」において読誦される理由の大きな一つとなっていると思われる。

63] ḥābēr 'ānī lekōl-'āšer y^erē'ūkā ūl^ešōm^erē piqqūdeykā

わたしは、あなたを畏れるすべての者、あなたの定めを守る者たちを友とする。

64] ḥasd^ekā 'ādōnāy māl^e'ā hā'āreṣ ḥuqzeykā lamm^edēnī

主よ、あなたの慈しみに地は満ちている、あなたの掟をわたしに学ばせたまえ。

9 tet)

65] tōb 'asītā 'im-'abd^ekā 'ādōnāy kidbārekā (λόγος)

主よ、あなたは自らの僕とともに、あなたの言葉にしたがって善きことを為す。

66] tūb ta'am wāda'aṭ lamm^edēnī kī b^emiṣwōteykā he'ēmān^etī

識別、判断、知識をわたくしに教えたまえ、わたしがあなたの規律を信じられるように。

67] ṭerem 'e'ēne(h) 'ānī šōgēg w^e'attā imrāt^ekā (λόγιον) šāmār^etī

わたしは低くされる前、罪を犯した。だが今や、わたしはあなたの言葉を守っている。

68] tōb-'attā ūmētīb lamm^edēnī ḥuqzeykā

あなたは良き方、その良さをもって、わたくしにあなたの掟を学ばしめたま

え。

69] tāp-lû 'ālay šeḡer zēdīm 'ānī b'kol-lēb 'ēṣṣōr (nāṣar; 「守る」 119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145) piqquḡeykā

傲岸な者たちはわたしの上に欺瞞を塗りつける。だがわたしは、あなたの規律を守る。

70] tāpaš kaḡēleb libbām 'ānī tōrāt-kā šī'āšā'tī (šā'a'; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94 : 19)。

彼らの心は牛乳のように弛緩している。だがわたしは、あなたの法を喜びとする。

71] tōb-lī kī-'unnēti ('ānā低くする ; プアル態) l'ma'an 'elmaḡ ḡuqqeykā

わたしにとって、わたしが低くされていることは良い。あなたの掟を学ばんがため。

72] tōb-lī tōrat-pīkā mē'alpē zāḡāb wākāsep

わたしにとっては、1000の黄金や白銀よりも、あなたの口から出る法のほうが良い。

・ここで「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。「主よ憐れみたまえ」×3。「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」が挿まれる。

10 yod)

73] yāḡeykā 'āsūnī wayḡōn'nūnī (ḡūn 「確かである」 ; 119 : 5, 73, 90) ḡāḡinēnī we'elm'ḡā miṣwōteykā

あなたの両の手はわたしを創り、わたしを確かにされた。あなたの規律を解し学ばせんがため。

74] y'rē'eykā yir'ūnī w'yīsmāḡū kī liḡbār-kā (λόγος) yiḡāl'tī

あなたを畏れる者たちがわたしを見て喜ばんがため、わたしはあなたの言葉を待ち望む。

75] yāḡa'tī 'āḡōnāy kī-ṣeḡeq miṣpāteykā we'emūnā 'innīṡānī

主よわたしは知る、あなたの裁きが義しいことを。あなたはまことをもって私を苦しめる。

76] y'ḡī-nā' ḡasḡkā l'naḡāmēnī k'imirāt-kā (λόγιστος) l'aḡḡekā

どうかあなたの慈しみが、あなたの僕であるわたしの慰めとならんことを、あなたの仰せのごとくに。

77] y^əbō'ūnī raḥāmeykā w^ə'ehye(h) kī-tōrātēkā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」 119 : 24, 77, 92, 143, 174)

あなたの憐れみがわたしのもとに来たらんことを。さすればわたしは生きる。あなたの法はわが喜び。

78] yēḥōšū zēḏīm kī-šequer 'iww^ətūnī 'ānī 'āšiah b^əpiqqūḏeykā

高ぶる者たちが恥じ入らんことを。彼らは悪をもってわたしを歪曲するも、わたしはあなたの定めを語る。

79] yāšūbū lī y^ərē'eykā w^əyōḏ^ə 'ē 'ēḏōṭeykā

あなたを畏れる者たち、あなたの論しを知れる者たちが、わたしの許に立ち戻るように。

・『詩編』第 51 (50) 編にも同趣旨のフレーズが出る (51 : 15)。

80] y^əhī-libbī tāmīm b^əḥuqqeykā l^əma'an lō' 'ēḥōš

わが心があなたの掟により、まったきものとならんことを。わたしは恥じ入ることがない。

11 kaf)

81] kāl-tā liṭšū'ātēkā napšī liḏbārēkā (λόγος) yiḥāl'tī (yāḥal 「待ち望む」 ; 119 : 43, 74, 81, 114, 147)

わたしの魂はあなたによる救いに飢え渴き、あなたの言葉を待ち望む。

82] kālū 'ēnay l^ə'imrātekā (λόγιον) lē'mōr māṭay t^ənahāmēnī

わたしの両の眼は、あなたの仰せのために消え入る。いつ、わたしはあなたを慰めると言ってくれるのか。

83] kī-hāyītī k^ənō'ḏ b^əqītōr ḥuqqeykā lō' šākāḥ-tī

というのもわたしは、濃い煙の中の革袋のよう、あなたの掟をわたしは忘れない。

84] kammā y^əmē-'abḏekā māṭay ta'āše(h) b^ərōḏ^əpay mišpāt

あなたの僕の日々はどれほどなのか、わたしを迫害する者たちに対し、あなたはいつ裁きを行われるのか。

85] kārū-lī zēḏīm šīḥōt 'āšer lō' k^ətōrātekā (Bazil § V3, cf. *Szentlélek* 2,42)。

高ぶる者たちは、わたしに対して陥穽を掘った。それはあなたの法に適うものではない。

86] kol-mišwōteykā 'ēmūnā šequer r^əḏāpūnī 'ozrēnī

あなたの規律は、すべて真実。人々はわたしを偽りで迫害する。彼らから私

を助けたまえ。

87] kimʿaṭ killūnī ḥāʾāreṣ waʾānī lōʾ-ʾāzabtī piqqūḏeykā

彼らはこの土地でほとんどわたしを滅ぼさんとする。しかしわたしは、あなたの定めを棄てることはしない

88] kʿḥasḏḏkā ḥayyēnī wʿešmʿrā ʿēḏūt pīkā

あなたの慈しみにしたが、われを生かしたまえ。わたしはあなたの口の論しを守ろう。

12 lamed)

89] lʿōlām ʾādōnāy dʿḥārḏkā (λόγος) niṣṣāḥ baššāmāyim

主よ、あなたの言葉は永遠に、天において固く立つ。

90] lʿḏōr wāḏōr ʿēmūnāṭekā (ʿēmūnā) kōnantā ʾereṣ wattaʾāmōḏ

とこしえに、あなたのまことは固く立てられ、地も固く立つ。

91] lʿmišpāṭeykā ʾāmḏū ḥayyōm kī hakkōl ʾāḥāḏeykā (Bazil, Szentlélek 51,49).

今日それらはあなたの裁きのために立っている。万物はあなたの僕なるがゆえに。

92] lūlē tōrāṭḏkā šaʾāšuʾāy (šaʾāšuʾīm 「喜び」 119 : 24, 77, 92, 143, 174) ʾāz ʾāḥadtī ḥʿonyī

もしあなたの法がわが楽しみでないなら、わたしは自らの悩みのうちに滅びたであろう。

93] lʿōlām lōʾ-ʾeškāḥ piqqūḏeykā kī ḥām ḥiyyītānī

永遠に、わたしはあなたの定めを忘れない、それらによりわたしは生かされてきたが故に。

94] lʿkā-ʾānī hōšīʿēnī kī piqqūḏeykā ḏārāšʿtī (尋ね求める ; 3 回)

わたしはあなたのもの、われを救いたまえ。われはあなたの定めを尋ね求めるが故に。

95] lī qiwwū rʿšāʾīm lʿabbḏēnī ʿēḏōṭeykā ʿetḥōnan (理解する)

わたしに悪しき者たちは滅びを望む。だがあなたの論しをわたしは理解する。

96] lʿkol tiklā rāʾītī qēṣ rʿḥāḥā miṣwātḏkā mʿōḏ

すべてにおいて完成と終わりがあるのをわたしは見た。あなたの規律は限りなく広大。

13 mem)

97] mǎ-’āhabti tōrātekā kol-hayyōm hī’ śihāti (śihā 119 : 97, 99 のみ)

わたしはどれほどあなたの法を愛したことが、一日中、それはわたしの学び。

98] mē’ōyēbay t’hakkēmēni mišwōtekā kī l’ōlām hī’-li

あなたはあなたの規律により、わが敵よりもわたしを知恵あるものとされた。それは永遠にわたしのもの。

99] mikkol-m’lammēday hiškalti kī ’ēd’wōteykā śihā (śihā 119 : 97, 99 のみ ; 動詞 śiah は 119: 15, 23, 27, 48, 78, 148) li

わが教えの師すべてに比して、わたしは理解に優れる。あなたの論しはわたしの学び。

100] mizz’qēnim ’etbōnān kī piqqūdeykā nāšartī

わたしは長老たちに比して理解に優れる、わたしはあなたの定めを守るがゆえに。

101] mikkol-’ōrah rā’ kālī’ti raglāy l’ma’an ’ešmōr d’bāreḳā (λόγος)

すべての悪の道から、わたしはわが両の足を止めた。あなたの言葉を守らんがため。

102] mimmišpāteykā lō’-sār’ti kī-’attā hōrētāni

わたしはあなたの裁きから離れることがない、あなたはわたしを教えたがゆえに。

103] ma(h)-nniml’sū l’hikkī ’imrātekā (λόγος) mid’baš l’pī (Bazil § VI-2, 281).

あなたの掟は、わたしのあごに何と甘美であることか。わたしの口には蜜よりも。

104] mippiqqūdeykā ’etbōnān ’al-kēn sānē’ti kol-’ōrah šāqer (119: 69, 78, 86, 104, 118, 128)

あなたの掟をわたしは理解する、あらゆる悪の道からわたしは離れる。

14 nun)

105] nēr-l’raglī d’bāreḳā wē’ōr lintībātī (Bazil § 230)

あなたの言葉はわたしの足の灯、わたしの小道の光。

106] nišba’ti w’āqayyēmā lišmōr (「守る」) mišp’tē šidqekā

わたしは誓い、そして果たす、あなたの義の裁きを守るために。

107] na’ānēti ’aḏ-mē’ōḏ ’aḏōnāy hayyēni (「生かす」 8 回) kiḏbāreḳā (λόγος)

わたしは甚だしく低くされている。主よ、あなたの言葉どおりにわたしを生かしたまえ。

108] *niḏḏōt pī rʿṣē(h)-nā' ʾāḏōnāy ūmišpāṭeykā lamməḏēnī* (Basil § 137)

わが口の供え物を、どうか主よ、受け取りたまえ、そしてあなたの裁きを学ばせたまえ。

109] *napšī bʿkappī tāmīd wʿtōrāṭkā lō' šākāḥtī*

わが魂は常にわが掌にあり、あなたの法を忘れることがない。

110] *nāṭnū rʿšā'im paḥ lī ūmippiqqūḏeykā lō' tā'tī*

悪しき者たちはわたしに対してわなを仕掛けた。しかしわたしはあなたの定めから逸れることがない。

111] *nāhaltī ʿēḏwōṭeykā lʿōlām kī-šʿsōn* (喜び) *libbī hēmmā*

わたしは永遠にあなたの諭しを嗣業として受け取る。それらはわが心にとつての喜び。

112] *nāṭīṭ libbī la'āšōt ḥuqqeykā lʿōlām ʿēqeb*

あなたの掟を為すために、わたしはわが心を傾ける。永遠に、そしてとこしえに。

15 samekh)

113] *sē ʿāpīm šānē'tī wʿtōrāṭkā ʾāhāb'tī*

ふた心の者たちをわたしは憎み、わたしはあなたの法を愛する。

114] *siṭrī ūmāginnī ʾattā liḏḏār'kā* (λόγος) *yiḥāl'tī* (yāḥal; 119: 43, 74, 81, 114, 147)

あなたはわが覆いにしてわが盾、わたしはあなたの言葉を待ち望む。

115] *sûrū-mimmennī mʿrē'im wʿeṣṣrā* (119: 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145) *mišwōt ʿēlōhāy*

わたしから、悪事を働く者たちを逸らせたまえ。わたしは神の規律を守るであらう。

116] *somkēnī kʿimrāt'kā* (λόγιον) *wʿehye(h) wʿal-tʿbišēnī miššibī*

わたしを支えたまえ、あなたの言葉の通りに。わたしは生きるであらう。そしてわが望みにおいてわたしを辱しめたもうな。

117] *se ʾāḏēnī wʿiwwāšē'ā wʿeš'ā* (šā'ā) *ḥuqqeykā tāmīd*

われを支えたまえ、わたしは救われるであらう。わたしは倦むことなくあなたの掟を見つめる。

118] *sālītā kol-šôgīm mēḥuqqeykā kī-šequer tarmītām*

あなたは放置した、あなたの掟から迷い出る者たちすべてを。彼らの欺きは悪しきもの。

119] sigîm hišbattā kol-riš'ê-'āreṣ lākēn 'āhabtî 'ēdōteykā

地の悪人どもすべてを、あなたは金粕の如くに断たれた。わたしはあなたの諭しを愛する。

120] sāmār mippaḥd'kā b'šārî ūmimmišpāteykā yārē'tî

わが肉は、あなたの恐れゆえに逆立つ。そしてあなたの裁きをわたしは恐れる。

16 'ayin)

121] 'āsîṭî mišpāt wāṣedeq bal-tannihēnî l'ōš'qāy

わたしは裁きと義をおこなう。わたしを虐げる者たちにわれを委ねたもうなかれ。

122] 'ārōḥ 'abḏ'kā l'ōḥ 'al-ya'asqunî zēḏîm

善のためあなたの僕の保証人となり給え、高ぶる者たちがわたしを虐げることのないように。

123] 'enay kālū lišū'atekā ūl'imrat (λόγιον) ṣidqekā

わが両の眼は慕い求める、あなたの救いと、あなたの義の仰せを。

124] 'āsē(h) 'im-'abḏ'kā k'ḥasdekā w'ḥuqqeykā lamm'dēnî

あなたの慈しみに即してあなたの僕に為したまえ。そしてあなたの掟を学ばせたまえ。

125] 'abḏ'kā-'ānî ḥāḥînēnî w'ēḏ'â 'ēdōteykā

われはあなたの僕、われに理解させたまえ、そしてあなたの諭しを知らせたまえ。

126] 'ēt la'āsôt la'ādōnāy hēpērū tōrātekā

いまこそ主の為されるべき時、彼らはあなたの法を棄てたがゆえに。

127] 'al-kēn 'āhabtî mišwōteykā mizzāḥāḥ ūmippāz

それゆえわたしはあなたの規律を愛する、黄金よりも、純金よりも。

128] 'al-kēn kol-piqqûdē kōl yiššār'tî kol-'ōrah šeqer šānē'tî

それゆえあなたの定め of のすべて、小道のすべてをわたしは悉く正し、悪から離れる。

17 pe)

129] p^lā'ōt 'ēd^wōteykā 'al-kēn n^sārātam (nāšar) napšī

あなたの論しは驚くべきもの、それゆえわが魂はそれらを守る。

130] pētaḥ d^bāreykā (λόγος) yā'ir mēbīn p^tāyīm

あなたの言葉を披くことで光が差し染める。それは無学の者たちを悟らせる。

131] pī-pā'artī wā'eš'āpā kī l^mišwōteykā yā'āb^tī

わたしはわが口を開く、そして渴望する。あなたの規律を慕い求めるがゆえに。

・ここで「栄光は父と子と聖霊に、今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。「主よ憐れみたまえ」×3。「栄光は父と子と聖霊に、今もいつも世々とこしえに」が挿まれる。

132] pⁿē(h)-'ēlay w^honnēnī k^mišpāt l^ohābē š^mekā

あなたの面をわたしに向けたまえ、そしてわたしに憐れみを注ぎたまえ、あなたの名を愛する者たちへの裁きに仕がって。

133] p^amay hākēn bⁱimrātekā (λόγιον) w^eal-tašlet-bī kol-'āwen

わが歩みを確かなものにしたまえ、あなたの仰せにおいて、そしてすべての不義に対し、わたしを治めさせるなかれ。

134] p^dēnī mē'ōseq 'ādām w^eēsm^rā (守る) piqqūdeykā

わたしを贖いたまえ、人の虐げから、わたしはあなたの定めを守ろう。

135] pāneykā hā'er b^eabdeykā w^elamm^dēnī 'et-ḥuqqeykā

御顔をあなたの僕に輝かせたまえ、わたしはあなたの掟を学ばせたまえ。

136] palgē-mayim yār^dū 'ēnāy 'al lō'-šām^rū tōrātekā

わたしの両の眼は水の流れを滴らせる。彼らがあなたの法を守らぬがゆえに。

18 šade)

137] šaddīq 'attā 'ādōnāy w^eyāšār mišpāteykā

主よあなたは義しき方、あなたの裁きは揺らぐことがない。

138] šiw^wītā šedeq 'ēdōteykā w^eēmūnā m^e'ōd

あなたは課した、あなたの論しの義とまことを、それは計り知れない。

139] šimm^tatnī qin'ātī kī-šā^khū d^bāreykā (λόγος) šārāy (Bazil § 165).

わが熱情がわたしを滅ぼす。わが敵どもがあなたの言葉を忘却したがゆえに。

140] š^rūpā 'imrātekā (λόγιον) m^e'ōd w^eab^dekā 'āhēbāh

あなたの仰せはいとも練り上げられたもの、あなたの僕はそれを愛する。

141] šā'ir 'ānōkī w^enibze(h) piqqudeykā lō' šākāh'tī

わたしは若く、軽んじられる。だがわたしは、あなたの定めを忘れることがなかった。

142] šidqāt^ekā šedeq l^e'ōlām w^etōrāt^ekā 'ēmet

あなたの義は永遠に正しく、あなたの法はまこと。

143] šar-ūmāšôq m^ešā'ūnī mišwōteykā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」；119：24, 77, 92, 143, 174)

苦難と窮乏とがわたしを見出す。あなたの規律はわが楽しみ。

144] šedeq 'ēd^ewōteykā l^e'ōlām hābīnēnī w^e'ehye(h)

あなたの論しは永遠に正しい。わたしに理解させたまえ、するとわたしは生きる。

19 qof)

145] qārā'tī b^ekol-lēb 'ānēnī 'ādōnāy huqqeykā 'eššōrā

わたしは心を尽くしてあなたを呼び求める。主よ、われに答えたまえと。あなたの掟を守らせたまえ。

146] q^erā'tīkā hōšī'ēnī w^e'ešm^erā 'ēdōteykā

わたしはあなたを呼び求める、わたしを救いたまえと。わたしはあなたの論しを守るだろう。

147] qiddamtī ḥannešep wā'āšawwē'ā liḏbārykā (λόγος) y'hāl'tī (yāḥal 他に 119：43, 74, 81, 114)。

わたしは夜明けに先んじ、叫び求め、あなたの言葉を待ち望む。

148] qidd^emū 'ēnay 'ašmurôt lāšīah (šīah 「観想」；他に 119：15, 23, 27, 48, 78) b^e'imrātekā (λογία)

わが両の目は夜警に似てまんじりともせず、あなたの言葉を喜びとする (Bazil § XXXVII-5)。

149] qōlī šim'ā k^eḥasdekā 'ādōnāy k^emišpātekā ḥayyēnī

主よ、あなたの慈しみに従ってわたしの声を聴き、あなたの義に応じてわたしを生かしたまえ。

150] qār^ebū rōd^epē zimmā mittōrāt^ekā rāḥāqū

企みによって迫害する者たちが近づく、彼らはあなたの法からは遠い。

151] qārōb 'attā 'ādōnāy w^ekol-mišwōteykā 'ēmet

主よあなたは近くにいます。そしてあなたのすべての規律はまこと。

152] qeḏem yāda'ti mē'ēdōteykā ki l'ōlām y'sadtām

はじめからわたしは、あなたの論しにより知っていた、あなたがそれらの礎を永遠の昔に敷いたということを。

20 resh)

153] r'ē(h)-'onyi w'hall'sēni ki-tōrāt'kā lō' šākāh'ti

わが苦しみに目を注ぎ、わたしを救い出したまえ。あなたの法をわたしは忘れることがなかった。

154] rībā rībī ūg'e'alēni l'imrāt'kā (λόγος) hayyēni

わが争いを争いたまえ、そしてわたしを贖いたまえ、あなたの仰せにおいてわたしを生かしたまえ。

155] rāhōq mēr'sā'im y'sū'ā ki-ḥuqqeykā lō' dārāsū

救いは悪しき者たちから遠い。彼らはあなたの掟を尋ね求めぬがゆえに。

156] raḥāmeykā rabbīm 'ādōnāy k'mišpāteykā hayyēni

主よ、あなたの憐れみは計り知れず、あなたの裁きに従ってわたしを生かしたまえ。

157] rabbīm rōd'pay w'sārāy mē'ēd'wōteykā lō' nātīti

わたしを迫害する者たちとわたしの敵どもは数多い。だがわたしは、あなたの論しからそれることがなかった。

158] rā'tīti ḥōg'dīm wā'eṭqōtātā 'āšer 'imrāt'kā (λόγος) lō' šāmārū (Bazil § 99, 296)

わたしは裏切り者どもを目にし、忌み嫌う。かれらはあなたの仰せを守ることがない。

159] r'ē(h) ki-piqqūdeykā 'ahāb'ti 'ādōnāy k'ḥasd'kā hayyēni

主よ、あなたの定めをわたしが愛するのを見そなわしたまえ。あなたの慈しみに従ってわれを生かしたまえ。

160] rō's-d'ḥār'kā (λόγος) 'ēmet ūl'ōlām kol-mišpaṭ šidqekā

あなたの言葉の頭は真実、あなたの義の裁きはすべて永遠。

21 sin)

161] šārīm r'dāpūni ḥinnām ūmidd'ḥār'eykā (λόγος) pāḥaḏ libbī

国々の長たちは、理由もなくわたしを迫害する。だがわたしの心はあなたの言葉を畏れる。

162] šās (歡ぶ) 'ānōkī 'al-'imrāt'kā (λόγος) k'mōšē' šālāl rāb

あなたの仰せにわたしは悦ぶ。幾多の戦利品を見出した者のごとくに。

163] šequer šānē'tī wa'āta'ēbā tōrātēkā 'āhāb'tī (Bazil § V, 5, 10, 11, 12, 174, 296).

わたしは悪を憎み、忌み嫌う。わたしが愛するのはあなたの法。

164] šeḇa' bayyôm hillaltīkā 'al mišp'etē šidqekā

日に7度、わたしはあなたを讃美する。あなたの裁きの義をめぐって。

165] šālôm rāb l'ōhābē tōrātēkā w'ēn-lāmō miḵšōl

あなたの法を愛する者たちに、平和は豊かであり、彼らには躓きがない。

166] šibbartī lišū'ātēkā 'ādōnāy ūmišwōteykā 'āsītī

主よわたしはあなたの救いを待ち望み、あなたの規律を実行する。

167] šām'rā napšī 'ēdōteykā wā'ōhābēm m'ōd

わが魂はあなたの論しを守り、大いにそれらを愛する。

168] šāmartī piqqūdeykā w'ēdōteykā kī kol-d'rākay negdekā

わたしはあなたの定めと論しを守る。わたしの道はすべて、あなたの前にある。

22 taw)

169] tiqraḇ rinnātī l'pāneykā 'ādōnāy kiḏbārēkā hābīnēnī

主よ、わが叫びがあなたの前に届かんことを。あなたの言葉のとおりにわたしが覚らんことを。

170] tābō' t'hinnaṭī l'pāneykā k'ō'imrātēkā (λόγιον) haššilēnī (<nāšalのヒフイル態；『詩編』51:16にも出る)

わが願いよ、あなたの面前に赴くがよい、あなたの言葉がわれを救い出してくれるように。

171] tabba'nā š'pāṭay t'hillā kī t'lamme'dēnī ḥuqqeykā

わが唇が讃美を告げ知らせんことを。あなたはわたしに、あなたの掟を学ばせる。

172] ta'an l'šōnī 'imrātēkā (λόγιον) kī kol-mišwōteykā šedeq

わが舌があなたの仰せを応えんことを。あなたの規律はすべて正しい。

173] t'hi-yādēkā l'ōzrēnī kī piqqūdeykā bāhār'tī

わたしを助けんがため、あなたの御手が生きんことを。わたしはあなたの定めを選び取る。

174] tā'abtī lišū'ātēkā 'ādōnāy w'tōrātēkā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」；119:24, 77, 92, 143, 174)。

主よ、わたしはあなたの救いを慕い求める。あなたの法はわが喜び。

175] t̥hī-napšī ūt̥hal'lekkā ūmišpāteḱā ya'āzrunī

わが魂が生き、あなたを讃美せんことを。そしてあなたの裁きがわたしを助けんことを。

176] tā'it̥i k'še(h) 'ōbēd baqqēs 'abdeḱā kī mišwōteyḱā lō' šākāhtī.

わたしは迷い出た小羊の如くに滅びゆく。どうかあなたの僕を探し出したまえ。あなたの規律をわたしは忘れぬがゆえに。

7. 注目すべき動詞8個に関する注記

以上で『詩編』全150編中最も長大な第119編の翻刻を、ヘブライ語本文に即してひとまず終えた。この『詩編』第119編に関して、8つのキー・ワード(名詞)が全体の基調を成している、という点についてはすでに紹介した。

これに対し、バシレイオスが原型を整備した人物として記憶されるビザンティン修道院典礼において、たとえばこの『詩編』第118編は、読誦のための使用言語の違いはさておき、どのような意味づけのもとに読誦されるのだろうか、という点が、本稿において提示してあった問題である。

バシレイオスは、この『詩編』第118編に対する注解を、『詩編注解』その他において遺しているわけではない。したがって、彼がこの詩編にいかなる解釈を施したのかという問いに対して、直接的な回答を与えることはできない。けれども、バシレイオスの手になる『修道士大規定』第37章に載る夜半課をめぐるの記載には、第118編の第62節、および第148節からの引用が認められるため、バシレイオス当時から、この詩編が夜半・早朝の祈祷において読唱されていたことが知られる。また『大規定』と並び「修徳書」群のうちに数えられる『修道士小規定』において、『詩編』全150編のうち最も頻度高く引かれるのがこの第118編である(上記翻刻部の注記を参照)。

たとえば『修道士大規定』のうちには、この第118編148節「わが両の眼は夜警の時刻に先立つ。あなたの仰せを観想するために」が引かれている。ここで「観想するために」と訳した部分に関して、ヘブライ語原文はśāhであり、この第119編でこの語彙は頻用されていた(119:15, 23, 27, 48, 78)。バシレイオスは、ここにギリシア語訳文のἐξομολογεῖσθαιを読んでいるのであるが、このギリシア語語彙についても、おそらくバシレイオスの中ではヘブライ語原文śāhに見られる「観想性」の伴う形で理解されていたものと推測して誤りは

なかろう。それはバシレイオスが、「観想」(θεωρία)の意義について、最晩年の一時期に記されたとされる『書簡』8において次のように述べているためでもある。

「心において淨いものは幸いである。彼らは神を見るであろう(マタイ5:8)。兄弟たちよ、天の王国と聞いて、諸事物の真なる想念(κατανόησις)以外のものを考えるべきではない。この想念こそ、神的な書が「至福」とも呼んでいるものである。というのも天の王国とは、あなたがたの内面にあるのだから(ルカ17:21)。人間の内面に成立するのは、観想(θεωρία)に他ならない。結局「天の王国」とは観想のことであろう。この天の影をいま、われわれはあたかも鏡のうちに見るごとくに目にしているのであり、後になれば、この土質の身体から解放され、不滅性と不死性を身にまとい、この天国の原型(ἀρχέτυπα)を目にすることになる。もっとも、目にすることになると言っても、それはわれわれが、自らの生を廉直に統御し、正しき信仰の先見を得て初めて可能なのであり、それらなくしては、誰一人として、主を目にすることは不可能なのである」(Deferrari 1926: 88)。

このような人間の内面における「観想性」は、正統三位一体論をめぐって苦闘したバシレイオスにあって、聖霊が内在する神殿(書簡2,4)たる人間のうちに認められる、無比なる特質として意識されていたに相違ない。このような視点で詩編第119編を読み直すなら、そこには「待ち望む」yāhal(119:43, 49, 74, 81, 114, 147)、あるいは「喜ぶ」(119:16, 47, 70; 名詞形で119:24, 77, 92, 143, 174)といった、人間精神の内面における相互交流性(究極的には三位一体なる神の似像性)に根ざす表現に着目することができよう。これは詩編読誦に際し、聖堂内での交唱性を重んじたバシレイオス(書簡第207)に通ずる本詩編の特質として指摘することができるだろう。

このような観点から、本稿では、ビザンティン典礼による新たな地平として、内省・観照を旨とする8つの動詞関連語彙がこの詩編のうちに頻出することを指摘し、これらが詩編の「三位一体的読誦」において大きな役割を果たしていることを指摘したい。

その8つの動詞とは以下のものである。

- 1) 「待ち望む」yāhal(ギリシア語訳ではἐπελπίζειν); 119:49, 74, 81, 114, 147。以上は「言葉を待ち望む」といった表現に見られる用例であるが、「裁きを待ち望む」という例も119:43にある。

「言葉を待ち望む」という表現を、ユダヤ教徒が発する場合とキリスト教修

道士が口にする場合で如何なる相違が生まれるだろうか。後者であれば、これが旧約聖書の用例であるということが同時に想起されるわけであるから、既に修道士自らのうちに内包されているキリスト性に照らしてこの旧約の言葉が理解されるという、一種の相互照射性がそこに成立していると言えるだろう。それは旧約の言葉を通じて、常に自らに内在するキリストを讃美するという往還行為であり、そこに働いているのは聖霊による「交わり」に他ならない。修道士はつねに、その交わりの三位性のうちにあると言えるのではないだろうか。

2) 「守る」 šamar (ギリシア語訳では φυλάσσειν) ; 119 : 4, 5, 8, 9, 17, 34, 55, 57, 60, 63, 67, 88, 101, 134, 146, 158, 167, 168, cf. 148 (同根の女性名詞が用いられている)。

これは通常用いられる一般的な動詞かもしれないが、「あなたの法を守る」と修道士が発言する場合、自らのうちに律法の具現者でもあるキリストそのものが内包されているのであるから、もとより字句に拘泥する律法主義ではなく、自己のうちに隣人・他者を「供応する」といった意味に転化するように思われる。

3) 「喜ぶ」 šā'a' (ギリシア語訳では μελετᾶν) ; 119 : 16, 47, 70. 名詞形 ša'āšu 'im で 119 : 24, 77, 92, 143, 174.

「あなたの教えはわが楽しみ」という表現が 20 回以上現れることについては既に指摘がなされているが (フランシスコ会 1968 : 393), これも 2) と同様、自らのうちに既に「律法」の体現者・キリストが内在していることを「喜ぶ」、という意味において、現在終末論的な地平が意味されているのではないだろうか。

4) 「記憶する」 zākar (ギリシア語訳では μνησθῆναι) ; 119 : 49, 52, 55.

「律法の記憶」から転じて、修道士の場合には、終末たるキリストの到来を「記念する」・「思い起こす」、つまり「自らのうちに記念する」という意味となり、「聖霊の神殿としての人間」(書簡 2) への神の内在性 (同) を証しする、という意味に転ずると思われる。

5) 「観想する」 nāḥaṭ (ギリシア語訳では κατανοεῖν) ; 119 : 6, 15, 18.

これも 4) に似て、三位が宿る神殿としての人間の尊厳を「証しする」という意味に転ずる。

6) 「護る」 nāṣar (ギリシア語訳では 主として ἐκζητεῖν) ; 119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145.

同じく「守る」という意味となる 2) にも似て、「供応する」意味に通ずる

であろう。

7) 「観想する」 śīḥ (ギリシア語訳では μελετᾶν) ; 119 : 15, 23, 27, 48, 78, 148. つぶやき【名詞】 śīḥā は 119 : 97, 99 のみであり, śīḥ と同根。

上にも若干引いて解説を施したが, 自らのうちにあって三位が交わる, その三位の現在を証する, という意味に止揚されるため, おそらく同訳語となる 5) に近い意味を表す。

8) 「忘れる」 śākāḥ が否定形で計 8 回用いられている (ギリシア語訳 οὐκ ἐπιλανθάνεσθαι) ; 119 : 16, 61, 83, 93, 109, 141, 153, 176。

敵のあり方を批判する用例 (119 : 139) は別として, 自らのあり方についてつねに否定形で用いられることは, 転じて自らのうちに, 忘却することなく「供応し続ける」意味に転じ得る。すると結局, 上掲した 2) 6) と近い意味になることが考えられる。

結.

詩編第 119 (118) 編は, 本稿前半に記したように「律法」をはじめとして「掟」や「定め」あるいは「規律」といった語彙が頻出するだけに, いかにも旧約聖書的な特質を有した詩編として捉えられがちである。そしてバシレイオスがこの詩編を, 修道院の週日夜半課において読誦する基礎的な詩編として採用したということは, そのようなこの詩編のもつ律法性を修道院にも浸透させようとした彼の意図の現れであったと捉えられるかもしれない。しかしながら, バシレイオスはその活動の主たる勢力を注いだ正統三位一体論の確立, あるいは聖霊論の正統的整備という観点から再考するならば, この詩編に含まれている隠れた特質が浮かび上がってくるのではないだろうか。それは, 人間精神の持つ三位一体的構造であり, 「想起こす」「待ち望む」「喜ぶ」といった, 人間がおこなう基礎的な精神活動のうちに認められる「交わり」「交流」の要因である。バシレイオスが基礎を敷き, 以降 1700 年近くにわたって継承されてきたビザンティンの修道活動の基本的な精神は, まさしくこのような, 人間精神の根本的特質, 特にその動的性格に光を当てるものであったと言いうるのではないだろうか。

【参考文献】

- 秋山 学 2010a 「ハンガリーのギリシア・カトリック教会：典礼を中心に」(荻野弘之編『続・神秘の前に立つ人間：キリスト教東方の霊性を拓くⅡ』125-183頁所収), 新世社.
- 秋山 学 2010b 『ハンガリーのギリシア・カトリック教会：伝承と展望』, 創文社.
- 秋山 学 2015 「ビザンティンの修道士教育—聖バジルのテキストをもとに—」『文藝言語研究 言語編』67, 121-142, 筑波大学.
- 秋山 学 2020 「東方のキリスト教」(伊藤・山内・中島・納富責任編集『世界哲学史 4：中世Ⅱ個人の覚醒』180-181頁所収), 筑摩書房 (ちくま新書 1463).
- ミルトス・ヘブライ文化研究所編 1992 『詩編Ⅲ』.
- フランシスコ会聖書研究所訳注 1968 『聖書 原文校訂による口語訳 詩編』, 中央出版社.
- 桑原直己訳 1992 『修道士大規定』(宮本久雄・上智大学中世思想研究所編訳／監修『中世思想原典集成 2 盛期ギリシア教父』171-280頁所収), 平凡社.
- H. Bardtke (ed.) 1990, *Liber Psalmorum*, Stuttgart.
- F. Brown et al. (edd.) 1906, *Hebrew and English Lexicon of the Old Testament (BDB)*, Oxford.
- R. J. Deferrari (tr.) 1926, *St. Basil: The Letters I* (Loeb Classical Library 190), Cambridge, Massachusetts-London.
- K. Elliger et al. (edd.) ⁴1990, *Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)*, Stuttgart.
- Ivancsó István 1999, *Görög katolikus liturgika*, Nyíregyháza.
- Ivancsó István 2000, *Görög katolikus szertartástan*, Nyíregyháza.
- Keresztes Szilárd (engedélyezte) 1993, *Dicsérvétek az Úr nevét! : Görög katolikus ima- és énekeskönyv*, Nyíregyháza.
- Orosz László (ford.) 1991, Nagy Szent Bazil: *Életszabályok I.*, Nyíregyháza.
- A Rahlfs ²1979, *Septuaginta*, Stuttgart.
- Szabó Mária ²2015, *A Zsoltárok kincsei*. Budapest.
- R. Taft ²1993, *The Liturgy of the Hours in East and West*, Collegeville, Minnesota.